地元つくばで公開講演会を開催

森林総合研究所は10月15日、茨城県つくば市のつくばノバホールで「2050年の森：人口減少社会において森林の果たす役割とは」をテーマに公開講演会を開きました。地元つくばで公開講演会を開催するのは初めて。つくば市民をはじめ、関連業界関係、大学、研究機関、行政関係、報道関係など約200人が来場しました。講演会の模様はYouTube「森林総研チャンネル」で配信しています。

講演会は、森林を取り巻く情勢が急速に変わりつつある中、2050年の森林の姿、求められる森林の機能や研究などについて研究員5人が解説。研究成果の社会実装や産学官民の連携強化を目的にリニューアルした『森林産業実用化カタログ』の一部を紹介するポスター発表も行われ、来場者と研究員が交流しました。

地元つくばで開かれた森林総合研究所の公開講演会

◀YouTube「森林総研チャンネル」
https://www.youtube.com/c/FFPRIchannel/

森林総研にウッドデザイン賞奨励賞

森林総合研究所などが取り組んだ研究プロジェクト「早生樹等の国産未活用広葉樹材を家具・内装材として利用拡大するための技術開発」が「ウッドデザイン賞 2025」の奨励賞（ソーシャルデザイン部門）に選ばれました。「今後、拡大すると考えられる針広混交林経営の基礎となる研究であり、長期間を要する林地経営の中間段階での収入源確保の可能性にもつながる。今後の社会実装化を期待したい」と高く評価されました。

同プロジェクトは森林総合研究所を中心に、山形県工業技術センター、岐阜県生活技術研究所、福岡県農林業総合試験場資源活用研究センター、飛弾産業（株）とともに生研支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業」の資金を得て取り組みました。センダン、ハンノキ、ホオノキ、コナラ材の利用に当たっての基礎データとなる材質や物理特性などを明らかにするとともに、センダンについて業界の自主規格となりうる板材の品質評価基準の試案を作成するなどしました。

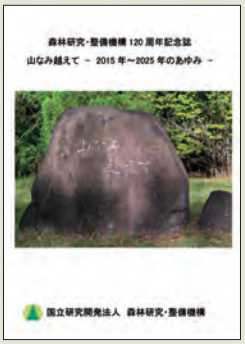
ウッドデザイン賞は日本ウッドデザイン協会（隈研吾会長）が主催し、木を活用した社会課題を解決する建築・空間、プロダクト、活動や研究を表彰する制度です。

WOOD コレクション 2024Plus でプロジェクトの概要を紹介し、成果を活用した試作品（椅子等）を展示

森林機構120周年誌発行

2025年11月1日に創立120周年を迎えた森林研究・整備機構（森林機構）は『森林研究・整備機構120周年記念誌 山なみ越えて ―2015年～2025年のあゆみ―』をオンライン発行しました。110周年以降の10年間の足跡をまとめ、公式サイトで公開しています。

▲記念誌ページ



森林研究・整備機構120周年記念誌の表紙から

次号予告

2026年3月発行予定の次号72号は「林業経営と生物多様性保全」（仮）と題して、生物多様性の保全に配慮した林業が重要度を増す中、どのような取り組みが今後必要なのか紹介します。巻頭鼎談（ていだん）は、東日本大震災で津波被害が大きかった宮城県南三陸町で、持続可能な林業と地域をめざす株式会社佐久の佐藤太一さんと、生物多様性の保全に配慮する森林管理法「保持林業」の研究に携わる研究員が語り合います。

P.3, 8, 14, 16, 18, 20

P.3, 8, 16, 18, 20

P.14

P.3, 8, 14, 16, 18, 20

P.3, 8, 14, 16, 18, 20

◀持続可能な開発目標（SDGs）
森林総合研究所は、森林・林業・木材産業等の幅広い研究を通して、国連の持続可能な開発目標（SDGs）の達成に積極的に貢献しています。該当する目標と記事のページ数は、左記の通りです。

プレスリリース等の最新情報はこちらから→
https://www.ffpri.go.jp/index-r.html

お問い合わせ
森林総合研究所
企画部　広報普及科　広報係
TEL　029-829-8372
Email　kouho@ffpri.go.jp